

## 概要

- 武蔵野美術学園

## 最近の連絡事項

- 先生へのインタビュー  
(4) 大藤 雅幸 先生  
(01/08)

## カテゴリー別表示

- お知らせ (23)
- 造形芸術科 (311)
- メディア表現科 (310)
- 展覧会のお知らせ (568)
- 先生へのインタビュー  
(12)
- 学園新聞 (15)
- オープンセミナー (63)
- 子ども教室 (11)
- 学園事務室 (11)

## 月別表示

- April 2017 (1)
- March 2017 (3)
- February 2017 (12)
- January 2017 (12)
- December 2016 (7)
- November 2016 (19)
- October 2016 (17)
- September 2016 (14)
- August 2016 (3)
- July 2016 (14)
- June 2016 (15)
- May 2016 (16)
- April 2016 (9)
- March 2016 (17)
- February 2016 (14)
- January 2016 (19)
- December 2015 (9)
- November 2015 (23)
- October 2015 (33)
- September 2015 (23)
- August 2015 (14)
- July 2015 (16)
- June 2015 (21)
- May 2015 (20)
- April 2015 (15)
- March 2015 (23)
- February 2015 (19)
- January 2015 (28)
- December 2014 (27)
- November 2014 (42)
- October 2014 (60)
- September 2014 (32)
- August 2014 (13)

<< 在校生展覧会のお知らせ 「ここにいるよ」展 | main | 新年最初の授業  
がスタートしました! >>

## 先生へのインタビュー (4) 大藤 雅幸 先生

2015.01.08 Thursday

「先生へのインタビュー」第4回は、造形芸術科・絵画専攻研究課程1年目の今年度よりの新授業「ポートフォリオ制作」を担当されました、アーティスト・アートディレクターの大藤 雅幸 先生です。



## ●大藤 雅幸 先生

1975年東京生まれ。武蔵野美術大学卒。JACA日本ビジュアルアート展入選。桑沢デザイン研究所の契約職員を経て2002年にオパスグラフィカを設立。グラフィックデザインを中心にWeb、空間、店舗デザイン、各種のトータルプロデュース、といった活動をされながら、アーティストとしてもご活躍されています。

—まず、初めて学園で授業をとしての感想をお聞かせ下さい。

大藤 向学心が強く、粘り強い学生が多かったと思います。授業終了後も色々質問を受け、やりがいを感じました。



授業風景



授業風景

## 関連リンク

- 武蔵野美術学園
- ガクエン gallery&lounge
- 武蔵野美術学園校友会
- 武蔵野美術大学

## ブログ内を検索



## Twitter：絵本コース

## Twitter：大澤先生

## 携帯の方はこちらから



## その他

- RSS1.0
- Atom0.3

- July 2014 (23)
- June 2014 (8)
- May 2014 (14)
- April 2014 (5)
- March 2014 (8)
- February 2014 (17)
- January 2014 (17)
- December 2013 (10)
- November 2013 (14)
- October 2013 (25)
- September 2013 (13)
- August 2013 (1)
- July 2013 (18)
- June 2013 (25)
- May 2013 (12)
- April 2013 (14)
- March 2013 (5)
- February 2013 (22)
- January 2013 (14)
- December 2012 (8)
- November 2012 (24)
- October 2012 (27)
- September 2012 (21)
- August 2012 (7)
- July 2012 (9)
- June 2012 (24)
- May 2012 (21)
- April 2012 (10)
- March 2012 (21)
- February 2012 (14)
- January 2012 (3)
- December 2011 (7)
- November 2011 (13)
- October 2011 (12)
- September 2011 (4)
- August 2011 (1)
- July 2011 (2)
- June 2011 (8)
- May 2011 (8)
- April 2011 (3)
- March 2011 (3)
- February 2011 (10)
- January 2011 (14)
- December 2010 (5)
- November 2010 (14)
- October 2010 (16)
- September 2010 (5)
- August 2010 (4)
- July 2010 (8)
- June 2010 (11)
- May 2010 (10)
- April 2010 (9)
- March 2010 (2)
- February 2010 (2)
- January 2010 (10)
- December 2009 (5)
- November 2009 (7)
- October 2009 (7)

### —大藤先生からみた、学園と学園生の印象は如何ですか？

**大藤** いつも開放的な学び舎の雰囲気を感じます。

少子高齢化と言われる昨今では、学校＝若年層という考え方は無くなりつつあり、学校は年齢に関係無く、「学びたい時に学びたい事を学びに行く場」になって来ていると思います。

そう言った背景の中で、純然と美術を学ぶ事のできる武蔵野美術学園の価値は、非常に大きいと感じます。これからも開放的な学び舎であって欲しいと思います。



出来上がったポートフォリオ



簡易版ポートフォリオも制作しました

### —先生自身が学生の頃、どのようなことを思い、学び、制作されてきましたか？

**大藤** 元々、油絵絵画とグラフィックデザインを両方学びに行きたいと考えていました。

しかし、それではお金も時間も足りません。

ですので、学生時代は昼間は油絵を描き、夜はデザイン学校で助手をするという生活をしつつ、色々な事を吸収していました。ちなみに在学中から油絵具とパソコン（MAC）を両方使用していました。

20代の前半は、ファインアートと広告デザイン、商用イラストなど、様々なジャンルの交差点に立つような生活を送っていました。その生活の中で、当時の自分がよく感じていたのは「絵が上手いのに仕事にありつけない人がいる一方で、あまり上手いとは言えないイラストでも仕事にありつけている人がいる」という事でした。

この頃はこれらの差について、業界の背景なども踏まえ、非常に深く考えていました。

当時の私が出した答えは、プレイヤー兼監督の視点を持つ事の重要性でした。

自分自身で何かを制作し終えた後、それを制作した自分自身を消し、その作品を客観的に扱うディレクターの視点が持てるかどうか。

監督視点の選手、あるいは選手視点の監督。

自分自身の中で行うその思考の行き来が非常に大切だと考えていました。

例えば、小説の表紙に自分の絵が採用されたいと考えた時に、絵で売

- September 2009 (6)
- August 2009 (1)
- July 2009 (30)
- June 2009 (10)
- May 2009 (13)
- April 2009 (6)

り込むのではなく、1冊丸ごとのデザイン案件として受注し、その表紙絵を自分で自分に依頼するというスタンスで、あらゆるものを制作していました。



大藤先生の手がけたデザイン (株)講談社 小説カバー

—卒業後はどのような形で制作をされていたか？また、現在にはどのように繋がっていますか？

**大藤** 卒業後は、在学中からお世話になっていた桑沢デザイン研究所の契約職員になりました。

基本的にはココからお金をもらって助手のような仕事をしていたのですが、グラフィック、建築、写真、服飾、理論など、あらゆるジャンルのデザインを概観・吸収させていただきました。

そんな中で、複数の関係者から「お小遣い稼ぎをしないか？」という誘いが来るようになり、ポスターやロゴ、本の装丁などをちょこちょこ受けるようになったのですが、このお小遣い稼ぎが結構繁盛し、最終的には毎月のお小遣いバイトが契約職員としてもらっているお給料の約4倍になってしまい、仕事が忙しくて仕事に行けないという妙な状態になり、26歳の終わり頃に事務所を立ち上げ独立しました。

現在は30代後半になりましたが、幸いそこから仕事が切れず、現在に至っています。



大藤先生の手がけたデザイン パンフレット

—今後の活動の予定をお聞かせください。

**大藤** 短期間ですが、英語圏に語学留学をしたいと考えています。

—最後に、学園生にメッセージをお願いします。

**大藤** 判らない事がある時に、質問できる先生が身近にいるという環境はとても有り難いものです。

逆に卒業後、プロのクリエイターとして活動して行くと、なかなかそ

んな機会も少なくなって来ます。

です所以在学中は、とにかく貪欲に、色々な先生から全てを吸い取る  
気持ちで頑張ってください。

—貴重なお話を有難うございました。これからも武蔵野美術学園を宜  
しくお願い致します。

---

〈インタビューを終えて〉

普段、グラフィックの仕事をしている大藤先生ですが、「手で描く」ということを重要視されているということが嬉しかったです。指導もきめ細かく丁寧で、パソコンに不慣れな学生も、Macを使用してポートフォリオを完成させることが出来ました。  
授業後、学生たちの普段の様子が観たいとおっしゃって、実際に絵画専攻研究課程1年目の教室を観て下さり、お褒めの言葉を頂きました。お話ししやすく、とても気さくな大藤先生でした。

ツイート **シェア** { 71 }

---

カテゴリー：先生へのインタビュー

▲ページの上へ